

渡航助成制度による国際研究集会参加についての事後報告書

以下の国際研究集会に参加しましたので、ご報告申し上げます。

主催者：American Physiological Society

集会名：Intersociety Meeting: The Integrative Biology of Exercise VII

開催地：アリゾナ州フェニックス

期間：平成 28 年 11 月 2～5 日

●研究集会の内容、感想

この度、渡航助成制度を利用させて頂き、初めての国際研究集会に参加・発表をし、大変貴重な経験をすることが出来ました。11月のフェニックスの気候は、日本とは大きく違い、昼は温暖でしたが、砂漠気候のため、夜は冷え込み、乾燥していました。気候が違うことや初めていわゆる「時差ボケ」を経験したことから、到着初日や学会初日（到着二日目）は体調が優れませんでした。幸いにも発表は学会二日目でしたので、体調をなんとか立て直すことができました。私自身のこれまでの研究やこの度の発表内容は、体内時計に関するものでしたので、「時差ボケ」についての勉強もしてきましたが、改めて自分の身体で経験すると新鮮なもので、今後「時差ボケ」軽減についての研究も急務であると実感致しました。学会参加者は 350 名ほどでその内学生が 120 人ほど、ポストドクターが 40 人ほどと比較的若い世代の参加者が全体の半数近くを占めていました。ポスター発表では、「The effects of regularly scheduled exercise on exercise performance of mice during the inactive period」という題名で、概日リズムと運動パフォーマンスについて発表致しました。この研究は、一日の内のトレーニングを行う時刻を変更することで、運動パフォーマンスの概日リズムを変更しうる可能性を示唆するものです。また、研究について普段交流の持てない海外の研究者から様々な意見を頂き、大変勉強になりました。今後の研究に活かしていきたいと思います。最後になりますが、この度の貴重な経験を帰国後も活かし、さらなり研究を進め、また同時に語学学習も行い、また国際研究集会の場で研究発表をしたいと思いません。



↑ポスター会場にて